

# はじめに

宮脇 千絵(南山大学人類学研究所・准教授／第一種研究所員)

本ブックレットは、2019年12月7日に開催された南山大学人類学研究所設立70周年記念シンポジウム「人類研の歩みと人類学の未来」の講演録である。

2018年初夏、他のシンポジウム案や予算組みを考えている際に、ふいに翌年に人類学研究所(人類研)が70周年を迎えることが明らかとなった。そこから急展開でもって、7月には大学に個別事業費の申請をおこなうため、70周年を記念する年の計画に入った。同年12月に、所長の渡部森哉先生、元所長の後藤明先生、第一種研究所員(当時)の藤川美代子先生、宮脇千絵で打ち合わせをおこない、本シンポジウムの骨子を固めた。

人類研の70年の歴史は一筋縄では紐解けない。誤解を恐れずにいえば、それは必ずしも一本の筋の通った歴史ではなく、幾度かの改組を繰り返してきているからだ。振り返ると、創立から最初の改組までを第一期(1949～1979年)、それから次の改組までを第二期(1979～2008年)、そしてそれ以降を第三期(2010年～現在)とみることができる。その間、多くの人がかかわってこられたが、人類研の特徴はなんとといっても、研究者だけではなくカトリック神言会の神父様との関わりである。

そこで本シンポジウムでは、人類研と神言会との関わりに焦点を当てることとした。このような経緯から、研究所の根源となったW・シュミット神父の功績、神父様でありながら研究所の所長を務められたクネヒト・ペトロ先生のご経験、そして現在と未来へとつながる報告、という構成となった。下記が当日のプログラムである。

人類学研究所設立70周年記念事業関連

人類学研究所設立70周年記念シンポジウム「人類研の歩みと人類学の未来」

日時:2019年12月7日(土)

シンポジウム:13:30～17:30(開場13:00)

懇親会:18:00～20:00

会場:シンポジウム:南山大学S棟・S21教室

懇親会:南山大学S棟3階 BISTRO CEZARS

主催：南山大学人類学研究所

共催：中部人類学談話会

- 13:30 学長挨拶 鳥巢義文(南山大学・学長)
- 13:35 趣旨説明 渡部森哉(南山大学・教授／人類学研究所・所長)
- 13:40 「ドイツ語圏人類学におけるP・W・シュミット」  
山田仁史(東北大学・准教授)
- 14:25 "Missionary and Anthropologist, a Contradiction?"  
クネヒト・ペトロ(南山大学・元教授／人類学研究所・元所長)
- 15:10 休憩
- 15:30 「人類研の目指したものと、そして目指すべきもの」  
後藤明(南山大学・教授／人類学研究所・第二種研究所員)
- 16:00 コメント 伊藤亜人(東京大学・名誉教授)
- 16:20 休憩
- 16:30 総合討論
- 17:30 閉会の挨拶 吉田竹也(南山大学・副学長／人類学研究所・第二種研究所員)
- 18:00 懇親会(会場：S棟3階 BISTRO CEZARS)  
(司会：宮脇千絵(南山大学・准教授／人類学研究所・第一種研究所員))

当日は、南山大学で人類学を学んだ卒業生やクネヒト先生のかつての教え子などを含む約90名の方にお越しいただいた。ご登壇いただいた先生方、お越しいただいたみなさまに感謝申し上げます。

また約1年半の準備期間には多くの方々のご協力を賜った。永井英治先生(国際教養学部)には人類研のアーカイブスに関する貴重なご助言をいただいた。ドーマン・ベンジャミン先生(人類研・第一種研究所員)は、クネヒト先生と後藤明先生の対談を映像で残すことを計画され、2回にわたる撮影を経て、映像の公開をおこなった。その過程で、クネヒト先生との対話を深めることができた。菅沼文乃さん(人類研非常勤研究員)には、毎回の打ち合わせにも同席いただき、ポスターや要旨集の作成をはじめ細々とした資料の整理を担っていただいた。人類研共同研究員(兼非常勤研究員)の角南聡一郎先生(神奈川大学)や中尾世治先生(総合地球環境学研究所)にも、多くのご助言を賜った。中部人類学談話会(文化人類学会中部地区研究懇談会)には、共催として幅広い周知にご協力いただいた。映像撮影と編集でお世話に

なった岡根智美さんとマシュー・トーマス・ロットさん、懇親会を引き受けてくださったBISTRO CEZARSの方々、折に触れてさまざまなアドバイスをくれた社会倫理研究所の方々、いつも支えてくれている人類研の事務スタッフの方々、当日アルバイトの学生のみなさん。改めて感謝申し上げます。

70周年という大きな節目を無事に終えたところで、世界は新型コロナ・ウイルスという思いもよらぬ事態に取り巻かれてしまった。研究所の今後の活動への影響も少なくなく、新たな段階を模索しているところである。